

連載

NIA 吉村会長の Coffee Break

国連職員として世界中を旅してきた吉村和就会長が、日本人の知らない海外事情をウィットとユーモアを交えて綴るコラムです。

第7回 世界水フォーラムとカッパドキアの思い出

トルコの首都イスタンブールで「第五回世界水フォーラム」が開催（2009年3月）され世界192カ国から約3万人の参加、各国のVIP（国家元首や閣僚）95名の出席で開会式が盛大に行われた。日本の皇太子殿下（当時）は「水との共生、水と災害」をテーマに基調講演、盛大な拍手が巻き起こった。毎回「世界水フォーラム」に出席している筆者は、今回は妻を同伴、会議の合間に、世界遺産「アヤソフィア」、「トプカプ宮殿」を見学、世界会議終了後には、かねてより訪れてみたかった世界遺産「カッパドキア」に向かう。

カッパドキア・恐怖の物語

会議終了後、イスタンブール空港からカイセリ空港行きの国内線に搭乗、約1時間15分のフライト予定。着陸寸前に「トルコ語だけの放送」があり着陸、乗客がロビーに集まり始めた。私は事前に手配をしていた「英語の判るガイド」を探したが、ロビーには見当たらなかったのので、「探して来る」と妻に告げ、ゲートから外へ出た。「やっぱり未だ来てなかった」と妻に告げるためにゲートに入った、その瞬間、軽機関銃を持った衛兵2人にガッチリ、羽交い絞めにされた。妻はロビーの中で真っ青、驚きで声も出なかった。

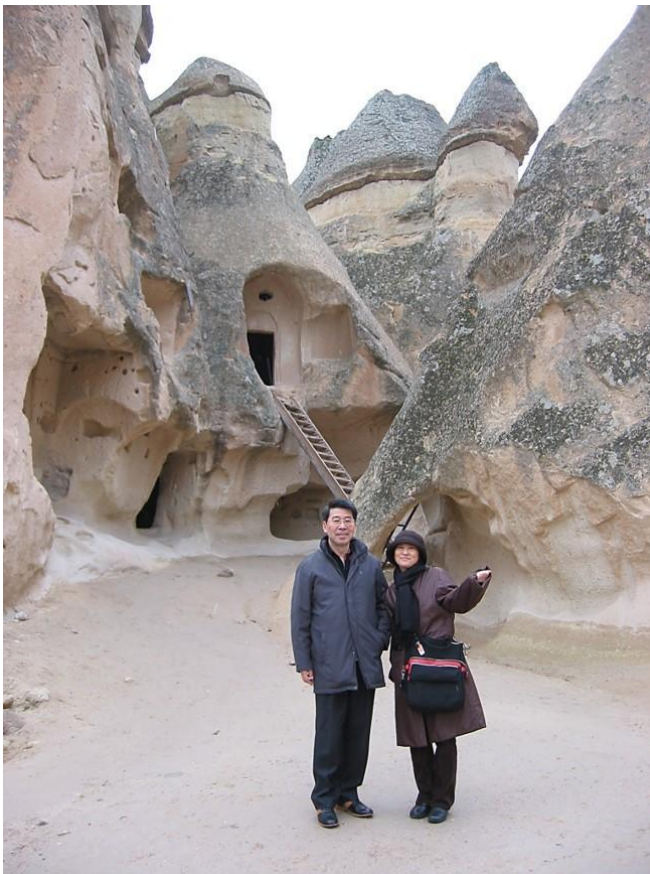
衛兵はトルコ語で怒鳴っているが、私には分からない、衛兵は乗客ロビーに向かって大声で「誰か英語の判る人いないか?」。そして英語の判る乗客の一人が私に説明してくれた、「着陸予定のカイセリ空港は現在、積乱雲に囲まれ着陸不可なので臨時に着陸した。ここは軍事空港なので、一般人は外へ出るこ

とが出来ない。衛兵の指示に従って、正面玄関から入り、もう一度セキュリティチェックを受けろ!」と、さらに衛兵に、「この日本人が間違っ外に出たが、彼はスパイではない」と説明してくれたに違いない。（多分?）ロビーで妻と無事再会、そして飛行機は再びカイセリ空港に向けて出発し、我々は無事カッパドキアに到着。乗客の中に「英語の判る人」がいて良かったと、改めて英語は世界の共通語だと痛感した。トルコは国境紛争（シリア、イラク、ギリシア、キプロスなど）を数多く抱えている国なので、国家の安全保障、国を守る国家権力の凄さを肌で感じたカッパドキアの旅であった。

（吉村和就/習志野市国際交流協会会長、
国連テクニカルアドバイザー）



第五回世界水フォーラム
皇太子殿下（当時）基調講演「水との共生・
水と災害」2009年3月筆者撮影



世界遺産 カップパドキアの奇岩都市